

令和3年度 第47回卒業証書授与式 校長式辞

六年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

巣立ちの日にあたり、みなさんにこの先ずっと、覚えていてほしいことを二つ話します。

「一日は人生の部品である」以前そう伝えました。1163。

これは皆さんが学校に通った日数です。そして、今日はその最後の日。皆さんの人生において「小学校時代」が完成する日です。

1163日どのような部品、一日を積み上げてきましたか。

ピカピカに輝く、頑丈な部品ばかりで、「完璧な小学校生活」だった。そう言える人は多くないでしょう。力の限りを尽くして運動会を作り上げ、友達と肩を抱いて涙した。そんな心が震える日もあれば、叱られたり、ケンカをしたり、けがや病気をした日、そして休校になり、友達に会えなくなってしまった日もありましたね。

けれども「完璧でないこと」は「ダメなこと」ではありません。なぜなら、欠けたり、弱かったりする部品を持っている人は、人の悲しさがわかります。人にやさしくできます。失敗をした人を許すことができるからです。

どのような一日であっても、皆さんの「生涯の一日」「小学校時代の大切な部品」なのです。

自分の子供が小学校を卒業する。その時親は、誇らしくて少し寂しさもある、何とも言えない幸せな気持ちがするものです。

続いて、あなたの家族の周りを見てください。同じように親としての喜びを感じている方々が座っていますよね。

ご家族にとって、あなたはかけがえのない大切な人。そして、あなたのまわりに座っている友達にも同じように大切に思っている家族がいるのです。

「みんな誰かの大切なひと」ここは大切な人の集まりです。世の中は誰かの大切な人でできています。

それを忘れないことが、優しい社会の始まりだと、私は信じています。

これが、皆さんに伝えたいことの一つ目です。

保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。今日までわが子を慈しみ、はぐくまれた日々には、子供たちと同じく、様々な一日があったことと拝察いたします。

私たち大人も彼らと同じです。

「順風満帆とはいかなくとも、すべての日に意味があったのだ」そう皆様の前に座っている彼らが

証明してくれているのではないのでしょうか。

私共教職員一同、力を合わせて教育にあたって参りました。時にはご期待に十分に応えられなかったこともあったと存じます。ですがどうぞ、今日の彼らの堂々とした姿に免じてご容赦ください。

卒業生の皆さん、人の一生を、一日、二十四時間に例えると、小学校卒業は、午前三時くらいという話もしました。朝の三時ではその日がどのような一日になるかわかりません。

同じように、誰と出会い、何があって、どのような人生にするか、すべてはこれからです。

今の自分にできること、知っていることがこれからの人生を決めてしまうことなどありません。ですから、今、上手にできないことがあっても、知らないことがあっても焦る必要はありません。

将来をいたずらに不安に思うことなく、「今日一日という人生の部品を」を積み重ね「あなたがなれる最高の人」になりなさい。

それをあなたの後ろや周りに座っている大人たちは願っています。

これが二つ目です。

卒業する皆さんと保護者の皆様の未来が温かく、笑顔に満ちたものとなることを祈念して、式辞といたします。